

中学校第1学年 国語科学習指導案

単元名：「新しい視点へ」
教材名：「ちょっと立ち止まって～説得力はどこから生まれる？」
学習内容：本論と結論のつながりを読む（3/4）

授業者：
授業日：6月18日（火）
授業場所：3階 中1教室

【教材分析】

序論・結論がともに一段落ずつであり、図と文章が対応させて書かれていることから「序論・本論・結論」という概念を捉えさせることができる。また、生徒の興味を引く「だまし絵」がモチーフになっており、筆者が主張として述べていることを、生徒が実感しながら読み進めることができることも、この教材のよさといえる。

以上のことから、説明的文章を読む目的の一つである、「主張を説得力あるものにする工夫を捉えること」を読むために、分析的に読んでいく方法を指導していくのに、一年生のこの時期に適した教材であるといえる。

【生徒の実態】

【関連する指導事項】文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。（読-（1）-エ）

【本時のねらい】

本論の分かれ方と主張で述べていることの数が違うことの原因を考える活動を通して、「上の図の場合は」の「は」に着目すると、前の図とのつながりを読めることから本論は2つに分けられることに気づき、結論に書かれている内容と事例が対応した構成になっているからこそ、説得力のある文章であることを読むことができる。

【汎用性のある学び方】 段落始めの言葉に着目し、段落の関係性を見出すこと

1 「説得力はどこから生まれるか」という課題から、前時までの学習を想起する。

主張は2つだが、本論は本当に3つなのだろうか？

2 学習の見通しをもつ。→主張の内容と、どの段落が対応しているか考える。

3 音読→個人追究→発表

【手立て1】

「おばあさんの絵」のまとめり（⑥⑦段落）はどんな役割をしているのだろうか？

本論が8段落あるうちの、どの段落に着目して考えていくとよいのかを方向付けるため。

【手立て2】

「段落のつながりを見つけるために、前の『ダイコンは大きな根？』ではどこに着目したか？」

段落の役割を見つけたりつながりを考えたりするために、段落始めの言葉に着目するとよいことを想起させ、既習とつなげて学習するため。

【手立て3】（深めの発問）

『この図の場合』と『上の図の場合は』とでは、何が違うか？

限定の副助詞「は」の効果に着目させ、前のまとめりとこの図のつながりに気付かせ、本論の分け方を理解させる。

4 本時の学びを踏まえ、「説得力はどこから生まれるか」を考える。

5 自己の伸びを確かめる（ノートへのまとめ→発表）

最初はなぜ主張と、本論の数と同じではないのかが分からなかった。しかし、段落の始めの言葉に着目するとつながりが分かることを思い出したので、「この図の場合」と「上の図の場合は」の違いに気づき、つながりを読むことができた。そのことから本論は2つに分けられることが分かった。主張で述べたいことの根拠として本論があることを改めて実感した。だからこそ、1つ目の主張は2つの根拠を基に書かれているので、2つ目の根拠で述べている「今見えている絵を意識して捨て去らなければならない」という言葉は筆者が述べたいキーワードなのだと分かった。（口頭、ノートの記述）【読-（1）-エ】